

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】

《学校の現状》

- 児童は、明るく素直で、休み時間には校庭で元気に遊ぶ子が多い。挨拶当番を決め、年間を通して毎朝校門に立ち登校してくる児童に声をかけ、朝の挨拶の習慣の定着化を図っている。校内での挨拶や返事・基本的な生活習慣についてもだいたい定着してきた。学習用具忘れや宿題忘れをする児童が固定化されつつある。
- 教職員は教材研究・行事や授業の打ち合わせ等を熱心に行い、足立スタンダードをもとに児童一人一人に応じた指導を心がけている。経験が自校のみの教員が8名、育休明け教員1名、期限付き任用教員が1名いるが、お互いに協力を惜しまず、児童に正対しまじめに取り組んでいる。

《前年度の成果と課題》

- 基礎的・基本的な学習内容の定着
学習内容の理解に時間がかかる児童や区の学力調査で目標値に達しない児童に対する休み時間や放課後の補習、長期休業中の補充教室を着実に実施してきた。児童全体の基礎基本の定着度の底上げができてきた。通過率も向上し区の平均を上回った。朝読書や放課後補習を継続し、さらなる基礎学力の定着を目指す。教員は登校時校門や教室で児童を迎えたり、「わかった」「できた」授業を展開するために教材研究をしたり子供のために努力を惜しまない。若手教員が多いので教科指導専門員による授業観察や指導・助言を始めとして研修を積み、授業力・指導力をさらに向上させる必要がある。家庭学習に一定時間取り組む児童が増えてきた。宿題や自学等家庭学習の習慣をさらに定着させる。地域の環境や自然・人を活用した学習や体験活動をさらに充実させる。
- 心の教育の充実
年間を通した挨拶運動の実施で朝の挨拶はできるようになってきた。挨拶に対する保護者からの評価が低いため、さらに大きな声で自分から挨拶ができるようにしていく。また、時と場に応じた言葉遣いや返事ができるようにする。道徳の授業を充実させ、学校生活全体を通して、互いの立場を尊重し自分も相手も認め合えるようにする。
- 家庭・地域との連携による教育の充実
PTAは会長を中心として学校と地域との連携を図りながら熱心に活動を行っている。保護者会への参加も次第に多くなり、学校への関心も増してきている。教育活動に対する保護者の肯定的評価は95%であった。コミュニティスクール指定校として、家庭、地域と情報を共有し相互理解を深め協働の体制を深めていきたい。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組の概要**重点的な取組事項－1 学力向上を推進する**

- ・基礎学力の定着
- ・授業力・指導力の向上、足立スタンダードの徹底
- ・家庭学習の徹底、自主学習と読書活動の推進

重点的な取組事項－2 豊かな人間性を育成する

- ・縦割り班活動の充実
- ・幼稚園、保育園、中学校との連携
- ・道徳の授業の充実と挨拶運動等の推進

重点的な取組事項－3 家庭・地域との連携を図る

- ・基本的な生活習慣の定着
- ・環境教育の推進

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－１ 学力向上を推進する

* 区の学力調査では、

- ・ 4月の通過率 国語－84.6% 算数－88.3%
- ・ 1月の通過率 国語－98.2% 算数－94.2% であった。

国語では、13.6%、算数では、13.1%の伸びであった。

* 2月に実施した、現学年の調査では、通過率が 国語－79.7% 算数－81.3%であった。比較的良い結果だったが、通過できなかった児童が全校の2割いる。また、通過率の低い学年もある。今回の結果を維持しさらに伸ばすため、現在復習を重点的に実施し、春休みも補充教室を行い、基礎基本の確実な定着を目指していく。

* 平野スキルアップタイム、放課後補充教室が定着し、基礎基本の定着が図られつつある。

* 校内での研修、授業観察、教科指導専門員による指導を通して、各教科や領域の授業力・指導力の向上に取り組んだ。

* 校内研究として小中連携に取り組み年間8回の研究会、学校として6本の研究授業をした。問題解決型の授業、話し合い・伝い合いの場の設定等、足立スタンダードによる指導技術が向上した。

* 積極的に読書をする児童が増えた。今年度の全校児童の読書総冊数は、62604冊(年度末現在)。

* 忘れずに宿題をしてくる児童は、95%である。宿題以外の家庭学習をする児童は少しずつ増えている。

解決の方向性

- ・ 単元毎に定着度を確認し、記録に残す。
- ・ 学習内容の理解が不十分な児童に対して、放課後、長期休業中等を活用し、組織で計画を立て、補習を行う。
- ・ 「平野スキルアップタイム」により、さらなる児童全体の基礎学力の定着を目指し個別補習を行う。
- ・ 小中連携で教科ごとの分科会を中心に、9年間を見通した指導について研究し、授業力の向上と中一ギャップの解消を図る。
- ・ 次年度も区小学校教育研究会や各種研修会への参加を通し、授業力や指導力の向上を目指す。
- ・ 家庭学習のさらなる定着を図る。
- ・ 読書冊数の年間目標を新設するなど、読書活動をさらに推進する。

重点的な取組事項－２ 豊かな人間性を育成する

* 縦割り班遊び、集会、給食、挨拶運動とも計画通り実施できた。上学年が下学年を気遣い、思いやりながら活動する場面が増えた。日頃の休み時間にも他学年と遊ぶ姿が見られた。

* 小中連携は、研究授業、生徒の〇付けボランティア、児童の中学校体験、児童・生徒の合同練習等、年度当初の計画に沿って実施できた。

* 幼保小連携も、計画に沿って公開保育参観、園児の学校行事の見学、1年生との交流・給食体験等実施できた。

解決の方向性

- ・ 次年度の縦割り班での活動を早めに計画し、実施する。
- ・ 登校時の挨拶運動を縦割り班を活用して実施し、児童同士が明るく、元気に挨拶し合う環境をつくる。
- ・ 児童・園児・生徒の交流は、これまでと同様に計画する。

重点的な取組事項－３ 家庭・地域との連携を図る

* 保護者からの学校評価では、学校の様子がよくわかるように伝えられている項目は、94%(前年比±0)の支持率であった。

* 生活習慣の定着に向けて、毎月「生活調べ」を実施し、その結果を学年便りに掲載し、児童の生活リズムの見直しについて保護者への協力を呼びかけてきた。1月末までの集計では、朝ご飯を食べて登校する児童が99%(昨年同時期と+1%)、朝7時まで起きる児童が87%(同+2%)、家庭学習を忘れずにする児童が95%(同+6%)であった。一方テレビやゲーム1日2時間以内の児童が76%(同+5%)、家庭で読書の習慣がついている児童が76%(同-3%)、9時まで寝る児童は66%(同+4%)いる。昨年より数値的に高くなっている項目もあるが、まだまだ、改善していく必要がある。

* 一昨年度よりエコキャップ活動に移行した。エコキャップ回収容器を3カ所に設置し、お知らせを出して周知した。年間回収量178.5kg

* 給食の残滓率は、年度末現在2.8%。

解決の方向性

- ・ 保護者会全体会・学校だより・専科便り・学年通信・学校HP・PTA広報誌・開かれた学校づくり協議会だより等で学校の情報を発信していく。
- ・ 保護者会や授業参観等の内容の充実を図り、生活習慣の定着についての情報の交流を密にする。
- ・ 開かれた学校づくり協議会型のコミュニティスクール指定校として、年間活動計画を見直し活性化させるとともに、教員との情報交換の場を設定し情報の共有化をはかる。

・高学年を中心に校内清掃美化に努める。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

各教科の基礎的基本的な学力の定着に向けて取り組んできました。各担任が指導方法の改善に取り組み、問題解決型の授業ができるように研修を積み、実践してきました。板書計画やノート指導にも力を入れました。そして、子供たち一人一人の力がより向上することを願って指導してきました。算数では、習熟度別少人数での指導をし、児童一人一人の躓きに応じるよう丁寧に指導をしてまいりました。また、本校の特色である農業体験学習では、具体的な活動や体験を多く取り入れた教育を推進してきました。さらに、年間を通して、俳句作り・朝読書・平野スキルアップタイム・長期休業中の補充教室等、学習の基礎基本の定着に向け全校で努力してきました。全校児童の年間読書冊数は今年度末現在で62604冊に達しました。

保護者の皆様には、保護者会・学校公開・授業参観・各種学校行事等で多くの方に参観していただき学校での子供たちの様子を見ていただき、応援していただきました。家庭学習については、漢字や計算・音読を含め、学年×10分+αと時間を設定し、習慣化に向けてお願いしてきました。また、毎月生活調べをして日ごろの生活習慣の振り返りをしました。子供の生活リズムの定着に向けて、多くの皆様の協力を得ることができました。保護者の皆様・地域の方々のご理解ご協力のお陰と心より感謝申し上げます。

学校での安全指導については、避難訓練を始め、交通安全や校内での安全な過ごし方について指導してきました。次年度も、引き続き、児童の学力・体力の向上と学校生活の安全・安心、さらに心の教育の充実に向けて学校全体で取り組んでまいります。保護者の皆様・地域の方々のご理解ご協力をお願いいたします。

2. 平成30年度の重点的な取組事項

<達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る>

重点的な取組事項－1 学力向上を推進する

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
児童一人一人の基礎学力、思考力・表現力の向上	区学力調査 通過率84%	4月の全体での通過率 国語 84.6% 算数 88.3% 2教科平均 86.5%	通過率については、過去最高の数値で達成基準を上回った。基礎学力のさらなる定着をめざす。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
別紙「平成30年度学力向上アクションプラン」評価シート参照					

重点的な取組事項－2 豊かな人間性を育成する

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
様々な人との関わりを通して思いやりの心を育成する	学校評価項目 子供は、明るく元気に学校生活を送っている95%以上	247/251 =98.4%	・小さなトラブルはあるが、学校評価の肯定的な評価の通り、子供は、明るく元気に学校生活を送っている。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
縦割り班活動の充実	・縦割り班遊び年18回 ・縦割り班給食年2回 ・縦割り班集会年3回	・土曜授業日のある週の中休みを縦割り班遊びの日に設定し、土曜授業日の中休みを30分間にして縦割り班遊びを十分とる。 ・給食部、特別活動部	縦割り班の活動は、計画通りに実施できた。	・通常の休み時間にも、上学年児童が下学年児童の世話をしながら遊ぶことが多くなった。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
		の年間計画の中に縦割り班活動を明確に位置づける。			
幼稚園、保育園、中学校との連携	・児童・園児・生徒の交流	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の見学、給食体験、1年生との交流や保育体験をする。 ・学校図書館の利用や読み聞かせ体験をする。 ・中学校での一日体験をする。 ・百人一首大会前に、中学生との合同練習をする。 ・吹奏楽の合同練習・発表会をする。 ・長期休業中の小学校の学習教室等に中学生が〇付けボランティアとして参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、保育園とは、運動会、展覧会の見学を実施した。さらに、1年生との交流や給食体験も実施した。 ・中学校とは、一日体験や百人一首・吹奏楽の合同練習を実施した。 ・小学校の夏季補習教室に卒業生が〇付けボランティアとして参加した。 	・幼保小中の交流や体験は、次年度も同様に計画を立てる。	◎
道徳の授業の充実と挨拶運動等の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業の充実 ・学校評価項目、子供は家庭や学校でよく挨拶をしている87% ・オリンピック・パラリンピック教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の年間指導計画に重点として、親切、思いやり、生命の尊さ、友情、信頼等を位置づける。 ・朝と帰りだけでなく日中の挨拶について強化する。 ・年間計画に基づく確実な実施をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳やオリンピック・パラリンピック教育について年間指導計画に沿って実施できた。 ・挨拶についての学校評価 209/241 =86.7% 	・次年度も、思いやりのある子を育てるため、親切、生命尊重、友情を重点にする。 ・挨拶をさらに強化していく。	○

重点的な取組事項－3 家庭・地域との連携

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
家庭・地域との連携を密にし、信頼される学校を目指す。	・保護者の学校評価10項目においてプラス評価の平均95%	保護者の学校評価10項目においてプラス評価の平均 96.6%	・さらに教育活動を充実させ家庭・地域から信頼される学校づくりをしていく。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基本的な生活習慣の定着	・保護者の学校評価10項目においてプラス評価の平均95%	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者全体会・学校便り・専科便り・学年便り・学校HP・学校説明会・PTA広報誌、校門前掲示板等で教育活動を発信していく。 ・生活調べの各月の結 	保護者の学校評価10項目においてプラス評価の平均 2352/2434 =96.6%	・他校ではほとんど例を見ない専科便りを学校便りと同様に毎月発行するなど、学校を外に開くための工夫をしている。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
		果を学年便りに掲載し、基本的な生活習慣の定着について保護者に啓発する。		・基本的な生活習慣の定着に向けてこれからも続けていく。	
環境教育の推進	・エコキャップ活動への参加	・学年便りや担任の呼びかけで、エコキャップ活動への意識を高める。 回収量－150kg。 ・給食の残滓率 2.5%以下	・校内3カ所にエコキャップ回収ボックスを設置し、学年便りや担任が呼びかけ推進した。今年度の回収量は年度末178.5kgだった。 ・給食の残滓率 年度末2.8%	・給食は引き続き残滓率が下がるよう指導していく。	○
開かれた学校づくり協議会・学校運営協議会の活動の推進	・活動の活発化	・学校運営協議会を開かれた学校づくり協議会の運営委員会として位置づけ、各部の活動を明確化し年間計画の立案や進行管理をする。 ・土曜授業日には、○付け及びパソコン学習のボランティアとして参加要請する。 ・土曜事業として着付け教室、そろばん教室、理科教室、スポーツ教室等を計画実施する。	・運営委員会が各部の活動計画の立案や進行管理をした。 ・土曜授業日には、○付けボランティアとして6～10名が参加した。 ・農業体験活動も年間を通じて実施した。 ・年度当初の計画通り、土曜事業を6回実施した。	・開かれた学校づくり協議会の活動が明確化した。 ・運営委員会としての活動をさらに活発化していく。 ・土曜事業については、運営委員会、協議会と意見交流をして、実施内容を検討する	○

3. 学校活動全般について

学力向上委員会が中心になり、4月に実施された区の学力調査を分析し、朝読書（毎朝10分間）や5年目となる放課後「平野スキルアップタイム」の確実な実施、スキルアップルームを利用した担当教員による補習教室を実施するなどして、学力の向上に向けて取り組んできた。小中連携や校外での研修、教科指導専門員による指導等を通して授業改善・指導方法の工夫に努めた。子供たちの基礎学力は通過率で区の平均を上回り、国や都の調査でも平均を上回り着実に伸びてきている。

本校の特色である農業体験活動を通して、具体的な活動や体験をしながら生き物を大切にしたり、環境を考えたり、地域の方々との交流をしたりして、豊かな心の育成を継続して行ってきた。また、思いやりの心を育てるため、土曜授業日の中休みを30分間にして縦割り班遊びを実施してきた。

保護者の学校評価については、肯定的な評価が評価10項目平均96.6%となり、着任以来7年で一番の評価であった。

この結果に甘んずることなく次年度も、保護者や地域・学校運営協議会・開かれた学校づくり協議会と連携し、外部の方々の協力を得て、学校教育に対する関心を高めるとともに、知徳体の調和のとれた児童の育成を重点に全教職員の共通理解のもとさらなる充実した教育活動を推進していく。

「平成30年度 学力向上アクションプラン」評価シート

足立区立平野小学校 校長 葛谷 裕治

		アクションプラン	達成目標(=数値) 〈いつまで・何を・どの程度〉	具体的な取り組み内容 〈誰が、何を、どのように〉	実施結果	コメント・課題	達成度 (◎○△●)
1	継続	スキルアップ タイム	毎回のテストで90点 以上の結果を出す。	【指導者体制】担任 【取り組みのねらい・目的】 漢字・計算の基礎を身に付ける。 学力を定着させ、弱点を克服する。 【使用教材】次へのステップ、東京ベーシックドリル 学力調査類似問題、漢字・計算プリント	1月末現在 全学年ワークテ ストの平均点 国語86.4点 算数86.6点	・平野スキルアップタイムが定着 し、毎日復習をしてから下校する 習慣が付いた。学力の底上げにつ ながった。 ・観点別ポートフォリオを活用し て理解不足の解消に努めた。 ・基礎学力のさらなる定着をめざ す。	○
2	継続	放課後補充教 室	学力調査の再調査は目 標値の通過率100%	【指導体制】専科、学習支援ボランティア 【取り組みのねらい・目的】 つまづきをさかのぼり、少人数指導を行う。 反復して学習させることで基礎学力の定着を図る。 【使用教材】漢字・計算プリント 学力調査過去問題	1月の再調査 国語 -98.2% 算数 -94.2%	・毎月、担当学年を決め、学年の 枠を超えて復習できる環境を作っ た。 ・学力の底上げにつながった。	◎
3	継続	長期休業期間 中の補充教室	学力調査の再調査は目 標値の通過率100%	【指導体制】担任・専科・学習支援ボランティア 【取り組みのねらい・目的】 学力調査や過去問題を使った再調査等で目標値に達 しなかった児童を中心に問題を解き直したり、補充問 題に取り組んだりすることで、基礎学力の定着を図る。 【使用教材】漢字・計算プリント、学力調査過去問題・ 類似問題、東京ベーシックドリル、次へのステップ	1月の再調査 国語 -98.2% 算数 -94.2%	・長期休業中の補習も計画通り実 施できた。 ・1対3程度の少人数で丁寧な指 導をができた。	◎
4	継続・改 善	「学年別家庭 での自主学 習」の発行	宿題提出率100% 毎月の学年便りでクラ ス別提出率を掲載 学校便りで全クラス別 提出率を掲載	【取り組みのねらい・目的】 保護者会資料として配布し、家庭にも学力向上への 取り組みに理解をしていただく。 宿題が未提出の児童は、その日の内に放課後等の時 間を使って終わらせる。 全校で毎日、漢字、算数、音読の宿題を出すように 共通理解を図っている。	・家庭学習の達 成率89%	・宿題を忘れてくる児童が固定化 している。 ・家庭学習の習慣化をさらに推進 していく。	○

5	継続	読書活動の推進	年間読書冊数全校児童で60,000冊。 毎月クラス別冊数を集計し教員に提示し指導に生かす	【取り組みのねらい・目的】 全校児童で年間の読書冊数60,000冊を目指す。毎日の生活の中で読書の時間を確保し、読書に親しみ、考える力や想像力を育む。 ・朝読書（週30分×35週＝1050分） ・読書記録への記入 ・図書委員会による本の紹介等 ・教師による読み聞かせと本の紹介 ・読書旬間－6月低学年20冊、高学年500ページ ・読書月間－10月低学年40冊、高学年1000ページ	・読書活動を推進し、朝読書、読書旬間・月間も予定通り実施した。今年度の全校読書冊数は年度末現在62604冊。	・一人あたりの年間読書冊数100冊以上達成。 ・次年度は一人あたりの年間平均読書冊数130冊以上を目標にするとともに年間読書冊数学年別の目標を設定し、読書活動を推進していく。	◎
6	継続	百人一首旬間	各学年で20首ずつ覚える。	【指導体制】担任 【取り組みのねらい・目的】 日本の伝統文化である百人一首に親しみ、古語の響きの良さに気付かせる。7月、12月 【使用教材】小倉百人一首、五色百人一首	20首暗記人数 7月－60名 12月－88名	・国語の時間等を活用し、クラス内での対戦を楽しみながら暗記できるようにした。	○
7	継続	俳句コンクール	5・7・5のリズムで季語を用いた俳句を作る。	【指導体制】担任 【取り組みのねらい・目的】 身近な生活の中で感じたことや自然現象などを、短い言葉で表現することにより、物事を見つめる目を養い、豊かな感性を養う。 ・俳句コンクール（6月・10月） ・校長室前に俳句箱を設置し年間を通して俳句に取り組む。 ・外部の俳句大会にも応募する。	6月、10月に校内俳句コンクールを実施 年間を通して校長室前で校長先生俳句会を実施	・学校公開に合わせ、俳句コンクールを実施し、保護者が作品を鑑賞できるようにした。 ・年間を通して校長室前で、校長先生俳句会を実施したり、長期休業中の課題にしたりして常に俳句にふれられるようにした。	◎
8	継続	足立スタンダードに基づいた授業展開、校内での共通理解に基づいた指導体制	全教職員が本時のめあてとまとめを意識し、足立スタンダードに基づいた授業を展開する。	【指導体制】全教職員（授業者） 【取り組みのねらい・目的】 足立スタンダードに基づいた授業を展開することで、児童の考える力、話し合いをする力を身に付けさせる。 ・系統立てて学年別にノートを選定し、マス黒板を使って指導する。 ・ワークテスト（国・算）を全校で統一し、成績入力方法を統一し、経年比較ができるようにする。 ・漢字の速習（2～6年生は12月まで、1年生は1	・毎時間、問題解決型の学習展開を意識して実践した。 ・ワークテストの統一や漢字の速習は、予定通り実施できた。	・問題・ねらい・まとめを常に板書し、児童に本時の目当てを意識させた上で、問題解決型の学習を展開できた。 ・漢字は12月までに速習し、1～3月で習熟、活用できるように各クラスで取り組めた。	○

				月までに当該学年で学習する漢字の指導を終える。)			
9	継 続	授業力・指導 力の向上	全体会2回、授業研究6 回実施、区小研への全員 参加、一人4回以上研修 会に参加	<ul style="list-style-type: none"> ・年間8回の小中連携 ・全教職員による教科別分科会と授業研究を実施 ・区や都の研修会への参加、のべ100回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会2回 授業研究6回、 計年8回の小中 連携 ・区小研への参 加は80% ・研修会参加延 べ138回 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携では、副校長・主幹 教諭・研究主任・主任教諭を中 心に年間計画を作成し、2回の 全体会のほか、教科別分科会と 授業研究を6回実施した。 ・教科指導専門員による指導を 受けた。 ・区小研への全員参加は80% ・分掌に関わる命令研修以外 に、区や都の研修会へ1人4回 以上参加できた。 	○